

1. 派遣者情報	氏名(所属・職位)	小張 敬之(青山学院大学経済学部・教授)		
	JACET での役職・支部	国際交流委員 関東支部		
2. 派遣先学会 概要(国際交流 委員会で記入)	学会名・会員数・締結年	Thai TESOL 約 500 名		
	会長	Unchalee Sermsongward		
	国際交流窓口	Rose Marie Academy		
3. 派遣先大会 概要	大会名	The 34 th Annual Thailand TESOL International Conference		
	テーマ	21 st Century English Language Educatoin:Towards Global Citizenship		
	日時	2014 年 1 月 17 日～18 日		
	会場	The Empress Hotel, Chiang Mai, Thailand		
	発表件数	約 210 件(ポスターセッション含む)		
	一般参加者参加費	US\$150		
4. JACET 派遣者としての業務(発表以外、JACET からの派遣者として依頼を受けたこと、行ったことなど。)		開会式に参列し、会員に紹介された。代表者の写真撮影があった。海外提携学会からのビジネスミーティング(PAC)があり、JACET の 2014 年度国際会議(全国大会)の案内をした。		
5. 本人発表報告	題目	A Study on English Education integrating MOOCs and TOEIC Practice Kit in Cloud Computing Environments		
	発表枠・時間	招待講演枠 30 分	論文提出の有無	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
	反応等	年配のベテランの方々が参加して、日本のテクノロジーを利用した語学教育に興味をもってくれた。		
6. 聴講した主な講演・発表(1～2 例)	題目	Integrating 21 st Century Skills in Flipped EFL		
	発表者	Kerry Pusey, Evelyn Doman (University of Macau)		
	概要	21 世紀の ICT 技術を利用して、マカオ大学 1 年・2 年生を対象に反転授業を行った。事前にオンラインでビデオの講義を見て授業に参加するグループと通常の授業を比較し、EFL における授業効果の実験をした。120 名が参加した結果、反転授業に参加した学生の方が、学習に対する意欲もあり満足度が高く、学習者中心の授業で、EFL の学習効果もあがった。		
	題目	Thai Teachers of English in the 21 st Century and Student Preparation for Global Citizenship		
	発表者	Budsaba Kanoksilapatham (Silpakorn University, Nakhon Pathom, Thailand)		
	概要	グローバル化された社会の中で、タイの先生方がどのように“pluralistic society”の中で、どのように国際的にコミュニケーション教育を行っていくべきなのか。1) Global Englishes の提唱 2) Multimodal communication 技術を養うために、最新のテクノロジーを利用する必要性、最後に New paradigms of English language teaching が必要と結論付けた。		

1月16日(木)早朝0時30分の便で羽田からタイに出発、バンコクを経由して朝9時にチェンマイに到着した。チェンマイの空港には、Thai TESOL で手配してくれた大型のタクシーが迎えに来てくれて、The Empress Hotel には午前10時頃到着した。

【大会概要】

1月17日(金)大会第一日目

午前7時に起床、朝食を済ませて、大会の会場に午前8時30分に到着して、登録を済ませた。すぐに、開会式の会場に招待されて、花輪を胸につけていただき、歓迎をされた。

午前8時45分から開会式が始まり、チェンマイ大学の学生によるダンスのパフォーマンスから始まり、招待講演者ならびに提携学会から派遣された人々を丁寧に紹介し、歓迎式典が開催された。

最初の招待講演者は、Dr. Somkiat Onwimon ですすでに現役を引退はしているが、今でも大きな影響力をタイ社会に与えている、著名な学者・思想家・政治家である。非常に流暢な英語で、ASEAN の国際関係、タイのこれからの英語教育、国際英語、現在のタイのデモに関して、自分の政治家としての体験もふまえて、国際英語を使いながらユーモラスに講演を行った。

Plenary 1: Dr. Paul Matsuda “Teaching English as a Nonnative English Speaking Teacher”

Plenary 2: Dr. Icy Lee “Towards Assessment as Learning in L2 Classrooms”

18時45分から Conference Dinner が開催されて、Thai TESOL ノンメンバー、提携学会の参加者の皆さんと交流を深めて名刺交換をした。

1月18日(土)大会第二日目

最初の発表が午前8時から開始された。私の発表は、午前8時35分から9時5分までなので、早めに発表会場に行き、準備をして、無事に30分間発表を終えた。その後は2つの Plenary に参加した。

Plenary 3: Dr. Tricia Thorlby “When Mentoring Works”

Plenary 4: Dr. Russell Gordon Cross “Thinking Outside the Square? Finding a Place for Citizenship within Content and Language Integrated Pedagogies”

午前11時から11時30分 PAC Meeting が開催されて、各学会から派遣された代表者の紹介があり、交流を深める同時に business meeting を行った。私は JACET 代表として2014年8月に広島で開催される国際会議の案内をした。

午後の16時まで、各セッションの発表に参加し、質疑応答をした。

16時5分から17時まで閉会式があり、挨拶は短くして、大勢のスポンサーの企業が、抽選会を行い、参加者にプレゼントを提供していた。現金から様々な商品(辞書、テキスト他)を提供して、招待講演者がそれを手渡していた。閉会式まで多くの参加者のこっていたのは印象深かった。

【全体的な感想】

中高から大学の英語の若い先生方が、熱心に聴講される姿に感動を覚えた。発表者は、ベテラン先生方と海外からの発表者が多かった。今回の Thai TESOL の会議では、日本ほど ICT を利用した英語教育の発表は少なく、それよりも4技能の教育や Pedagogy に興味を持っている先生方が多かったようである。大会を支えていた学生たちの英語力は日本人以上のものがあると感じた。また、献身的にITのサポートから発表者を助けてくれていた。最後に日本以上に、Global English の必要性を感じていることには驚かされた。

【国際交流活動提案】

1年に一回の大会に参加する交流だけではなく、日ごろから ICT を利用してビデオ会議や、協同研究を学会の SIG でも作り、交流していく必要を感じた。国際交流も、ブレンド型の時代に突入したようである。

1月20日(月)の午前5時30分に羽田到着

Thai TESOL URL site:

<http://thailandtesol.org/?p=653>

<http://thailandtesol.org/?p=726> (私の参加写真)

7. 所感

(780字程度)

大会全体の感想、共同研究の可能性、その他の国際交流活動の提案など

